

## 《芽ばえ賞》

「おばあちゃんの障害者手帳」

有田市立保田小学校 6年

佐々木 泰誠 さん

「障害者手帳」って知っていますか。

障害者手帳とは、障害のある人が取得することができる手帳で、取得すると、障害の種類や程度に応じていろいろなサービスを受けることができます。

ぼくのおばあちゃんは子供のころに交通事故にあって、左足をケガしてしまつた。その治りようのために、一年間、学校を休学しましたが、完治せず、足の不自由な生活を送っています。だから、障害者手帳を持っています。その手帳には、おばあちゃんの写真がはつていて、住所、氏名、生年月日、障害等級、不自由な体の部位が書かれています。おばあちゃんは家の中ではつえをついていたり、かべをつたつて歩いていて、少しの段差でもつまずいたりしてしまいます。長時間、歩くことはできないから、出かける時は車イスに乗ります。だから、おばあちゃんの家に行った時はいつも、お母さんと一緒に、おばあちゃんを買い物につれて行きます。いつも行くスーパーの入り口の近くに車イスマークのついた駐車スペースがあるので、お母さんが車を停めると、ぼくは車イスを車からおろして、おばあちゃんが車イスに乗れるようにぼくの肩をおばあちゃんの手がわりにします。

でも、ある日、いつもの車イスマークのついた駐車スペースが空いていませんでした。だから、入り口の近くで車イスとおばあちゃんとぼくが先におりて、お母さんは車を停めに行きました。お母さんが車を停めに行ってる間に、車イスマークの駐車スペースに車を停めた人が車にもどって来ました。でも、体の不自由な人は一人もいませんでした。ぼくは、なんで元気な人が車イスマークの駐車スペースに停めるんやろう？とちょっとイライラしていたと思います。そんなぼくを見て、おばあちゃんは、

「今日は近くに停められなかったけど、自分たちが停めている時は、他のだれかが停められないってことやから、停められたら、ありがたいと思って、おたがいにゆずり合なあかんね。」

と言いました。ふつうの駐車スペースは、となりや後ろとの車の幅が狭くて、車イスの出し入れがしにくいので、障害者手帳を持っているおばあちゃんを車に乗せている時は、ぼくは当たり前前に車イスマークの駐車スペースに車を停めていいと思っていました。でも、おばあちゃんの一言で、ハッとしました。障害者手帳を持っているからといって、いろいろなサービスを受けられる事を当たり前と思わず、感謝の気持ちを持っているおばあちゃんは何だか素敵だなと思いました。

ほくもおおばあちゃんみたいに、当たり前前の日常を当たり前と思わず、感謝の気持ちをもって毎日を過ごしていけるようになりたいです。